

## Jalan Jalan インドネシア

### 第58回「独立の父スカルノ初代大統領が眠る観光地でもあるブリタールの墓所」

インドネシアの独立の父、建国の父であり、初代大統領でもあるスカルノ大統領といえばインドネシア人のおそらく誰もが尊敬し、「ブン・カルノ」と親しみを込めて今でも呼ぶ国家英雄である。インドネシアの空の玄関であるジャカルタの国際空港は独立時の正副大統領の名前をとって「スカルノ・ハッタ国際空港」と呼ばれ、空港近く的高速道路にはその銅像が立つ。

現在流通しているインドネシアの最高額紙幣の10万ルピア札に描かれているのもスカルノ・ハッタという独立の立役者の2人でインドネシア津々浦々どこへ行ってもスカルノ人気は未だに衰えていないし、たぶんこれからも衰えることはないだろう。

そのスカルノ大統領はデビ夫人を日本から迎えたこともあり、日本最頂で知られるなど日本との関係も深い。1970年6月21日の死去後埋葬された地は意外と知られていない。ジャカルタ南部の英雄墓地である「カリバタ墓地」に埋葬されているのではとと思っている人が多いかもしれない。事実カリバタ墓地には第3代のハビビ大統領がアイヌン夫人の隣に眠っている。第2代のスハルト大統領は中部ジャワのソロ近郊に、第4代のワヒド大統領は東ジャワのジョンバンに各々眠っている。

スカルノ大統領だが、実は東ジャワ州のブリタールというところに「スカルノ墓所」ともいふべき立派な墓がある。ブリタールはスカルノ大統領の生誕の地であるのだ。



一般道から墓所に入る道の入り口（上）

墓への正面入り口は割れ門となっている（右）



かつては墓所の中にある墓そのものはガラス張りで囲まれていて近づくことは一般の参拝者はできなかったが、最近久しぶりに訪れた時は、ガラス張りが取り払われ、ジャワの田園地帯の心地よい風が流れる吹き抜けに改築されており、誰もが直近まで行って参拝することが可能になっていた。

東ジャワ州の州都スラバヤからだと約 160 キロの道のりを車で 3 時間半から 4 時間、近くの町マランからでも約 75 キロ、車で 2 時間と結構不便な場所にある。2019 年 8 月に訪れた際はバリ島での与党「闘争民主党 (PDIP)」の党大会に向かう党首メガワティ・スカルノプトリ元大統領の一行と同じ専用機だったので、マランの空軍基地に着陸してそこから警察車両が先導する車列を組んでブリタールに向かったので約 1 時間少しで到着した。

ブリタール市内に入り幹線道路をそれて墓所に向かう道路沿いにはお土産物屋が軒を連ね、スカルノ大統領の顔が描かれた各種 T シャツなどの「スカルノグッズ」が売られている。

墓所の中のスカルノ大統領の墓の前には黒い大理石の石碑があり、そこには「独立宣言者でインドネシア共和国の初代大統領であるスカルノ同志ここに眠る」と記されている。

その大理石の石碑の後ろには左右に紅白の国旗と黄色い旗が風になびいている。黄色い旗はなんでも大統領旗で、スカルノ大統領とともに大統領旗もここで永遠の時を刻んでいるという説明があった。



墓のある風が吹き抜ける建物 (上)  
国旗と大統領旗、大理石の  
石碑の前が墓になる (右)





イスラム教徒の墓であるため、墓の表面は小石が並べられ、参拝したメガワティ党首や親族、PDIP 関係者などはイスラム教の祈りを捧げた後、用意された花びらを小石の上に撒いて冥福を祈った。

以前にはなかった立派なスカルノ大統領歴史資料館が墓所に隣接して建設されていた。これは 2004 年に完成したそうで、館内にはスカルノ大統領の立派な銅像とともにその功績、歩みが資料とともに展示されているという。

2019 年 8 月の墓所訪問はメガワティ党首ご一行の車列と同じ動きをしなければならないので残念ながらこの歴史資料館の内部を見る時間的余裕がなく、近いうちにぜひ再訪したいと思っている。

父の墓前で祈る  
メガワティ党首



墓地に隣接するスカルノ  
歴史資料館 (上)  
墓所前の通りには  
スカルノグッズを売る店が並ぶ  
(右)

